



## 秋の味覚 “きのこ”について

【指導員】 園芸課 鈴木 琢磨

朝晩の気温も下がり、すっかり秋めいてきました。JA秋田ふるさとには県内一のきのこ産地です。秋が旬と言われているきのこですが、そもそもなぜ秋が旬と言われているのかご存知でしょうか。

今回は意外と知らないきのこの生態について紹介します。

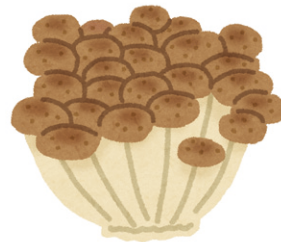
### 【きのことは】

きのこは動物でも植物でもありません。カビと同じ菌類で、種ではなく胞子で増えます。菌類のうちで、胞子をつくる部分（子実体）を目で見ることができくらゐ大きな菌をきのこと呼んでおり、きのこというグループがあるわけではありません。日本には名前がついているだけで約3000種、世界では約2万種あるといわれています。



### 【きのこの旬】

きのこは1年を通して育ちます。気温が下がり、雨が降って土の水分が増えるなど菌糸が刺激を受けると子実体が作られます。秋がきのこ狩りのシーズンと言われるのは、きのこにとって秋の気候が子実体の作られる刺激となるからです。また、一般的にはあまり知られていませんが、梅雨の時期にあたる6月～7月もきのこの生育に適しているため、旬と言われています。



### 【きのこの種類】

きのこの種類は大きく2種類あります。きのこは植物ではないため、光合成を用いて自分で栄養を作ることができません。枯木や落葉などを分解して養分を得る「腐生性きのこ」と、生きた木の根にくっついて共生しながら栄養を得る「菌根性きのこ」があります。



### 【きのこの栽培】

シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ブナシメジなど腐生性きのこは人工栽培されています。樹木に種となる菌を植え付け栽培する原木栽培や、ビンや箱におがくずやチップを入れて栽培する菌床栽培などがあります。

マツタケやホンシメジ、トリユフなどの菌根性きのこはアカマツなどの根と共生しながら育つため、人工栽培ができません。自然に生えたものを採取していましたが、しかし、2017年に韓国でマツタケの人工栽培に成功したというニュースが流れました。高価でなかなか気軽に購入することのできなかったマツタケが今後手軽に購入できる日も近いかもしれませんね。